



日本共産党・そねはじめレポート とうきょう民報おりにこみ版

2011年 12月14日発行 第 25 号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel:3907-1135
Fax:3906-3225

放射能除染せず、TPP 反対理由は外交だけ、談合はよく調べず放置 都民利益守る気ない石原都政を追及 (都議会代表質問)



●国をけなしながら、あまい放射線基準は都合よく利用

12月7日都議会で、清水ひで子政調委員長が代表質問に立ちました。第1に、都立公園で放射線を毎時7・06 μSv (北区基準の28倍)も測定しながら除染せず、他の施設は測定さえ拒否する姿勢を厳しく追及。子どもが地面に直接ふれて遊ぶ公園の地表で高濃度が出ているのに、日ごろけなししている政府の、実態に合わない「高さ1m」基準を、ちゃっかり適用して「問題なし」とする、ご都合主義を批判しました。

●TPP 反対理由は「外交力がない」から

清水ひで子議員は、石原知事がTPP(環太平洋連携協定)参加に反対表明したことを歓迎し、政府に強く要請するよう求めました。ところが知事は、共産党が「ただ反対しているだけの党」と決めつけたうえ、自分は非関税貿易に反対ではなく、政府に「外交力がない」のが理由だとして、基本的にはTPPを容認する立場であることを示しました。

●豊洲の土壌汚染工事の受注企業は内部資料に談合証拠をのせていた

清水議員は、豊洲の土壌汚染対策工事を受注したゼネコンの談合疑惑を質しました。受注したゼネコンは、設計した会社の元請け企業であり、設計情報は入札前から筒抜けで社内文書にも書き込まれていたこと、競争入札なのに約95%で落札したとして調査を求めました。財務局長は、とおりの調査だけで「問題なし」と開き直りました。清水議員は、年金が目減りされる一方で、来春の国保・介護保険・後期高齢医療の3つの保険料がいっぺんに値上げされる大変な状況を避けるためにも、外環道や豊洲の土壌対策などムダ使いにメスを入れて、オリンピック基金と合わせて都民の福祉・医療に回すよう強く求めました。

前回の五輪招致の際に、戦争まがいの発言を繰り返した石原知事の記事



共産党などの反対おし切って 北区議会も国会も民・自・公で五輪決議強行

区議会は12月6日最終本会議で2020年東京オリンピック招致を推進する決議を共産党などの反対をおし切って採決。同日に衆議院、翌7日に参議院でも決議が強行されました。2020年の五輪招致には都庁への都民意見の8割以上が反対、各新聞などの世論調査もほとんど一致しています。スポーツ関係者は、首都圏まで放射能の影響が及んでおり、原発事故も収束していない段階で国際級選手や世界の観客を招くことの無謀さをきびしく批判しています。

北区では八百川区議が、民・自・公が石原知事におもねり都民の願いや思いを無視して多数でごりおすることは絶対許されないと反対討論しました。

田村智子議員質問 「廃止」はウソで、都内で復活のスーパー堤防

浮間スーパー堤防は50ミリ越える豪雨対策を約束

12月5日参議院「行政監視委員会」で、共産党の田村智子参院議員がスーパー堤防問題を質問しました。

昨年「事業仕訳け」で「完成に400年かかる」として「廃止」と決めたはずなのに、今年、江戸川区北小岩のスーパー堤防を区が無理やり再開しました。

田村議員は、なぜ江戸川区にOKしたのか追及。政府側は「いっさいアドバイスしていない」と答え、区の独断専攻が明白になりました。

●「廃止」どころか「都市部では推進」に180度転換

また「廃止」と宣伝しながら、国交省では「都市部では今後も必要」とされ、高地価と住宅密集の都内河川沿岸で事業を再開しようとしていると指摘し、事業仕訳けの責任者・蓮舫大臣に「これでムダじゃなくまともな堤防事業なのか」と質問。蓮舫大臣は昨年と打って変わって「今造っている場所は適切な堤防事業」と開き直りました。

●浮間の堤防は完成後、水害が多発

さらに北区浮間のスーパー堤防は、降った雨が住宅側に流れるよう設計し、集中豪雨で水害を繰り返している実態を訴え、「堤防を造って水害まで起きているのは本末転倒」と質しました。国交省は、50ミリ対応の下水道に90ミリ豪雨が降ったためだと逃げましたが、スーパー堤防以外で水害がない理由は説明できませんでした。

●50ミリ以上にも対策を検討すると答弁

「この数年50ミリ以上の豪雨は頻繁で想定外じゃない。どうするのか」との追及に、「50ミリ以上の豪雨に対策を検討する」と答えざるを得なくなりました。今後も地元の運動がおおいに必要です。



いっしょに傍聴した江戸川の方々と。中央がそね前都議

そねはじめ交友録<その十九>

厳しくも暖かく、教え子をずっと気にしていた北九州のH先生

父の転勤で札幌から北九州の門司に移り、門司駅に近い国鉄宿舎から幼稚園と大里南小学校に3年まで通いました。担任の先生はずっと女性でしたが、集合場所を忘れて禁止の遊びをしたりするのは私には時に厳しく、給食になっても私に「特」の字の書き間違いに気づくまで何度も直させたりしました。

4年生から東京に転居。5年の2学期に再び北九州市に戻り、今度は門司港に近い宿舎から清見（きよみ）小学校に通いました。

6年担任だった女性のH先生はきびしい方でしたが、クラスみんなはなぜかのびのびして休時間は総出でドッジボールに興じ、授業開始に気づかず男子が全員廊下に立たされたこともありました。女子はしっかり者が多く、級長だった私が学活をまとめられないと、いつも副級長のKさんに助けられました。24年後、区議団の福岡視察の帰りに懐かしい学校を訪ね、そこで教わった住所を訪ねてH先生に再会しました。「共産党の議員？」と名刺を見て渋い顔をしながらも「まあごはんぐらい食べてって」とおいしいチャーハンをいただきました。卒業させた生徒を全部覚えていて「サッコ（Kさんのこと）も広島であったと同じ活動で挫折して小倉で喫茶店やってたけど、長野に嫁いだみたいだよ」と教えてくれました。かわいく優秀な教え子の人生を変えてしまったことが共産党嫌いの一因かもしれません。「住みやすいから門司は離れない」とおっしゃったH先生は、今でもきっとお元気だと思います。

区議になって訪ねた清見小は、建物はそのままで、卒業記念のポプラが屋上より高くそびえていました。

